

なお、明治十二年十二月に福岡県に勤務し衛生科兼学校掛となり、十九年九月に衛生課長となった。二十四年二月には福岡県典獄に移った。

明治三十四年一月十七日、東京市で五十四歳（數之年）で没した医師としての一生の中に、近代化への努力と、その影響について改めて評価すべきものがあると考えらる。

（群馬県議会図書室）

『太素』と『素問』『靈枢』の

比較考察

丸 山 敏 秋

現存する中国最古のまじった医書として知られる『素問』『靈枢』（通称『黄帝内経』）は、中国伝統医学の原典として永く尊ばれてきた。複雑な伝来の過程を経た両書の現行本には誤脱や錯簡・補入が少なからず存し、今後の研究において厳密なテキストクリティークが必要とされている。その際、両書の別伝のテキストと言うべき『太素』や『甲乙経』との比較校勘は不可欠な作業と言わねばならない。

とりわけ中国本土では早くに散佚して我が国にのみ伝わる楊上善注『太素』（平安末、丹波頼基の手写本、仁和寺所蔵）は、宋改を経ていない『黄帝内経』のテキストとして極めて資料的価値が高い。蕭延平本など、従来の『太素』の刊本は仁和寺本の写本あるいは再写本に基づくものである

が、近年仁和寺本そのものが影印出版されたことによつて、『素問』『靈枢』との充分な比較校勘が可能となった。今回はその作業を行った結果知り得た事柄のいくつかを報告する。

A・構成面より見た両者の関係

現行の『太素』は完本ではない。楊上善の序文と卷一・四・七・十八・二十のすべて、及び卷十七の大部分を欠き、他にも若干の欠佚部分がある。特に序文が失われているため、本書は果たして楊氏の編纂になるものか、あるいは楊氏は注のみを撰じたのが明らかでない。この問題はひとまずおくとしても、『太素』が『甲乙經』と傾向を同じくして『素問』『靈枢』の本文を類別編纂したものであることは、構成の面から明らかである。しかし『太素』の方が古代の原型に近く、素・靈二書は『太素』より生じたとする見方も一部にはあることから、その点について確認しておく必要がある。

現行の『太素』には毎巻題の下に、摂生・陰陽・人合・藏府・経脈・輸穴等々の項目名が傍書されている。すなわち三十巻より成る本書は、それらテーマに則して『素問』

『靈枢』の本文が編纂された医書に他ならない。特に卷三十の病論は実に五十四篇という多数の篇から成り、各種の病症が細かく分類されている。このような構成の『太素』から素・靈二書が作り出されたとは到底考えられない。また卷十の督脈・帶脈・陰陽蹻脈・衝脈・陰陽維脈の各篇の本文には他と重複部が見えることも、本書が素・靈より後出であることの一証と言ひ得る。現行の素・靈二書は王冰の編次補入・林億らの宋改を経てるとはいへ、『太素』の如く整然としたまとまりを有してはいない。

B・字句の異同の特色

古典籍が伝写される際に誤写が生ずることは己むを得ない。また『素問』の如く後代の補正・校定によって字句が改められる場合も少なくない。瑣細な異同はともかく、内容に関わる大きな異同に対しては注意が必要とされる。ここに詳細な事例は示し得ないが、林億らの校勘が残されている『素問』と『太素』の字句の異同に見られる特色はおよそ次の通りである。

全体的に『素問』の方が文章は整っており明らかな誤字も少ない。それは本書が幾度かの改編を経ていることから

当然と言えよう。『太素』の文体は概して簡潔・素朴であり、素問には新校正がしばしば指摘しているように、王氷の増補と思われる箇所が存する。

文字の異同は、運―連、衝―衝、端―端、及―乃、背―脊、四―血、寒―寒といった字形の近いものや、音を等しくするものに多い。また経穴に関する記載や数字にも相違が多く否定詞の有無によって意味が全く異なる場合も少なくない。それら本文の字句の異同は、楊・王両注の相違を生む原因ともなっている。検討を必要とする重要な字句の異同については、追って詳しく報告したい。

その他、問答形式の相違も目につく。両書の多くは黄帝と岐伯等との問答より成るが、該当箇所のそれは必ずしも一致していない。近年山田慶児氏はこの問答形式に着目して『黄帝内経』の学派形成説を唱えた。だが、『太素』と『素問』『靈枢』さらには『甲乙経』において一致しているとは限らない問答形式の相違をどう見るかについて、今後再検討が必要とされよう。

さらに今回厳密な校勘を行ってみて、内容を大きく左右するような字句の異同についてはかなりの部分が、新校正

正Vによって指摘されていることがわかった。△新校正Vには『太素』との校勘が一四〇箇所示されている。当時の『太素』と仁和寺本との間には若干の違いも存するようであるが、△新校正Vの選択・指摘は極めて当を得ている。このことは林億らによる北宋の医書校勘作業の優秀さを物語るものと言えよう。

(筑波大学大学院哲学思想研究科)